

2017 年金 3: 秋学期講義 現代哲学講義、認識論

講義題目：共有知とは何か？

<<Final Report について>>

テーマ：共有知に関連するテーマを自由に設定してください。

形式：問題設定（一つの疑問文で表現すること）

問題の説明

解答

解答の証明

分量：3000 字～4000 字

用紙：A4、40 字×30 行

締め切り：2017 年 12 月 20 日、

提出先：入江のメールボックス（文学部ロビー）

参考文献：

入江幸男 2006 年前期「実践的知識・共有知・相互知識」講義ノート

入江幸男 2008 年前期「アприオリな知識と共有知」講義ノート

入江幸男「相互知識はいかにして可能か」『アルケー』関西哲学会発行、2004 年 7 月、pp.54-67.

入江幸男「知を共有するとはどういうことか」『メタフュシカ』大阪大学哲学講座発行、37 号、pp.1-15、2007

入江幸男、ブログ「哲学の森」書庫「世にも奇妙な「共有知」「共同注意と指示」

中山康雄, 2004, 『共同性の現代哲学』勁草書房。

Yukio Irie, “Our’ Practical Knowledge” in The XXII World congress of Philosophy, Seoul National University, Seoul, Korea, July 30.- August 5., 2008.

Gilbert, Margaret, *Social Facts*

Gilbert, Margaret, *Joint Commitment*

Lewis, D., 1969, *Convention: A Philosophical Study*, Harvard UP.

Luhmann, N., 1972, *Rechtssoziologie*, ルーマン『法社会学』.

Ruesch & Bateson, 1951, *Communication*, Noton. ベイトソン&ルーシュ『コミュニケーション』

Schelling, T.C., 1960, *The Strategy of Conflict*, Harvard UP.

Scheff, R., 1967, „Toward a Sociological Model of Consensus,” *American Sociological Review* 32, pp.32-46.

Schiffer, S., 1972, *Meaning*, Oxford UP.

Searle, *Intentionality*, 『意向性』

Searle., 1995., *The Construction of Social Reality*, The Free Press.

Searle, *Making the Social World*

Sperber & Wilson, 1986, *Relevance*, スペルベル&ウィルソン『関連性理論』

Tuomela, Raimo., 2003., *The Philosophy of Social Practices*. Cambridge UP.